



リステラス星囲史略
古資料ファイル
1 - 6 - ?

《タヘヤ》
—東より来たる徒士—
(仮題)

(湧出中)

霧樹里守 is 土岐真扉

(草稿&没原稿)

(草稿&没原稿)

『東より来たる者』

(仮題)

『（創作ノートより）』 (たぶん中2の時のノート☆) 1

2006年6月28日 連載（2周目！・上古神代～水の大陸）

東方の国より旅をして来たうら若き剣士（沖田宗司風＝信吾）と
仲間たち

王都に探している者のいる気配を感じて身分をかくして入るが、
見つかって王の家来にとりたてられる。

遊女となってはいるが、もうけた金をすべて他人を救うために
使ってしまう娘。

税が払えないでしょっぴかれムチうたれる人を見ると
飛びだしていっては役人にあり金全てを渡してしまう。
けれどそれではほんのわずかの人しか救えないので
権力と肩書きが必要になった。

~~そこで~~そこに力の剣士のうわさを聞き、
また直接話をしたこと也有ったので

[『\(創作ノートより\)』 \(たぶん中2の時のノート☆\) 2](#)

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#) [コメント \(1\)](#)

6/12 夢

「この世にはなんの地位も血統もありませぬ。
でも、わたくしはもう何世代も前から救世主たるべく
運命づけられ、そのための準備をしているのです。」

「なんですって!! あなたは神の声を聞いたのですか?
そして……生まれる前のことを覚えている!?」

「お信じにならなくともかまいませぬ。
でもどうかお願いでございます」

「なんと……それではあなたこそわたしの探していた人なのだ」

「え?」

「わたしも神の声を聞いたのです。そして救世主となるものを
救けるように言われた。だからわたしははるばる旅をして
きたのです。」

「おお!! では《東方より来る正義》というのは
あなたのことでしたか!!
ありがたい。いまこそ時は来たのです。」

[『西の地平線 \(アトランティス中期\) 』 \(メモ帳からの転記集\)](#)

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\) コメント \(2\)](#)

1991.1.8.

神の声の記憶を持つ、マーシャタイプの少女。借金の為に身売りをせまられた村仲間に代わって進んで遊里に身を落とすが、決して崩れない。

ある日、暴れ牛が市に逃げ出して、子供が踏まれそうになるのを突き飛ばして彼女が危うくなった時、弓の一撃で救い出した旅の一行の若者がいた。

若者は東方より来た皇子であり、その時は一言二言かわしただけで「ご無礼を」すぐ別れる。

1979.6.12.

東方の国より旅をして來たうら若き剣士（ヒゲクマさんの沖田総司、もしくは信吾風）と仲間（一応家来）、王都に自分らを探している気配があるのを感じて身分を隠して入るが、見つかって王の家来にとりたてられる。

遊女となってはいるが、税が払えないでショッピングしようとしている人を見ると飛び出して行つては役人にあり金全てを渡してしまう少女。けれどそれではほんのわずかな人々しか救えないので、権力と肩書きが必要になった。

そこに、かの剣士のうわさを聞き、また直接、話をした事もあったので、ある夜半、単身、彼の館へ潜り込む。

「この世にはなんの地位も血統もございませぬ。でも、わたくしはもう何世代も前から救世主たるべく運命づけられ、そのための準備をしているのです。」

「なんですか？ あなたは神の声を聞いたのですか？ そして、生まれる前の事を覚えている？

なんと、それではあなたこそ私の探していた人なのだ。」

「え!?」

「わたしも神の声を聞いたのです。救世主たるもの助けるように言われた。だか

らわたしははるばる旅をして來たのです。」

「おお!! では、《東方より來る正義》というのはあなたの事でしたか。ありがたい。今こそ時は來たのです。」

.....完。

1981.1.8.

☆ 一人の宿命を負った少女の、魂の成長記として。
アトランの純ティカース系の少女にしては《神》が
出て来るのはおかしい。滅びし、リース神か。

1981.5.17.

多分、大地母神の事でしょう。

『(めも)』(1985.5.28.)

『(めも)』(1985.5.28.)

2006年6月24日 [連載\(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#) [コメント\(1\)](#)

サラティス

《サーの後を継ぎし者》

アトル・アン・ティス

「サラ・ティス？ では、サーは亡くなったのですか？」

「いいえ……未だ。」

[『水の大陸』～東方より来る者～](#)

2006年4月22日 [連載](#)

水陸帝国の封建制（絶対的身分制度）をひっくり返し、
四民平等の近代体制を築いた連中の物語。

<http://85358.diarynote.jp/201711022135017753/>

『た～や...西方より来たる騎士』 (仮題)

2017年11月2日 [リステラス星図史略](#) (創作) コメント (1)

もひとつ。

<http://85358.diarynote.jp/201711011803052401/>

「アジャ・カダリ」⇒「アジャカダーリ」

@ 『た～や...西方より来たる騎士』

ちょっと夕飯たべて夕寝してきてから書く。

コメント

霧木里守=畠樂希有 (はたら句きあり)

2017年11月1日18:05

騎士じゃなくて
都市でもなくて
徒士、だった？

https://www.youtube.com/watch?v=NDjxKcMqp_I

グリーグ - ペール・ギュント 第1組曲 第2組曲 シベリウス - フィンランディア 悲しきワルツ
トゥオネラの白鳥 カラヤン ベルリンフィル

=====

沙漠の村。

親が遺した借財のカタに人買いに拉致されかけている娘。

「お待ちなさい。私が、代わりに行きます。」

「なにを言ってるの！ダメよ！」

「だって私の婚約者はもう死んでしまったわ。この村で相手のいない女はわたし一人。これ以上トラブルに巻き込まれるのも御免だし、どうせ行き遅れるくらいなら、街に出て玉の輿を狙うわ。」

「だって…！」

「おばば様。私が自分から進んで行ったのだって、皆によく説明してね？ 安謝が責められることのないように。」

「うむ。引き受けよう」

「家の片づけをするから、小半時だけ待ってちょうだい。」

女衒の一行が気圧されているうちに、女は小さな小屋でちょうど煮おえてさまでいた昼飯をすぐに平らげ、あいた器を戸口の脇の砂でぬぐって日に当てた。

小さい弟妹9人の面倒を見るために家から出られない隣家の兄姉に声をかける。

「あんたたち、今夜からこっちで眠るといいわ。」

「ほんとに行っちゃうの？！」

「ほんとに行っちゃうわ。元気でね。」

=====

街の娼家。

「ふ～ん。…上玉じゃないか…。名前は？」

「アジャと申します。アジャ・カダリ。」

女衒に売られるはずだった娘の名前を、売られた女は名乗った。

「異国の名前だねえ…。…ちょうどいいや。あんたの妓名は、アジュカダーリ。（金襴緞子）。華やかでいいだろう？」

「ありがとう。できれば、なるべく良いお客様に売り込んで下さいね。」

=====

沙漠の村。尋ねてきた西方の男たち。

「いやいや、そんな女は知らん！」

恐れて、村人たちは偽証した。

流浪の果てに子を産んで果てた西方の没落貴族の姫とおぼしい婦人の赤子を、本人の意志とはいえ賣笑窟に売り飛ばした…などと伝えて武人らの怒りを買っては…と、怖れたのである。

「お待ち下さい！」

男たちの話を聞いて、追いすがった娘は告げた。

「知っています！　私の代わりに、街に売られた…！」

男たちは教えられた街へ向かうが、教えられた名前の女は、いくら探しても見つからない。

娼妓アジュカダーリは有名人だった。

ようやく気付く。「あの時の娘、アジャ・カダリと名乗らなかったか？」

=====

(...お風呂で洗濯してたら、今まで何十年も具体的なエピの無かった話に、
一気にここまでシーンが湧いた...w)

『西の地平線』

(仮題)

(設定資料)

(設定資料)

(借景資料集)

(借景資料集)

リステラス星圏史略
古資料ファイル
1 - 6 - ?
《タ～ヤ》
－東より来たる徒士－
(仮題)

<http://p.booklog.jp/book/118302>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉
著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ
<http://p.booklog.jp/book/118302>

電子書籍プラットフォーム：パブー (<http://p.booklog.jp/>)
運営会社：株式会社トウ・ディファクト